

No.8 別紙

1 活動名 第10期山田正彦の炉端政治塾 オンライン講座受講

2 研修の目的

(1) 本市における課題

不透明な現代社会の中で、いかに安心安全な社会を作るのか？ 人にとって大切な食とそれを支える農、食と農をどう守り、発展させていくのかは一大生産地である本市にとっても大切なこと。

(2) 研修の必要性

日本各地で実践されている農と食の従事者および有識者の話を聞き、最新の研究に触れることで農政、暮らしの安全を守ることにつながる。

(3) 研修項目 研修内容に同じ

3 研修内容

(1) 日時 令和3年11月20日（土）・12月18日（土）・3月19日(土)

(2) 会場 オンライン

(3) 出席者 1名 神津ゆかり

(4) 内容

11月20日（土）斎藤幸平氏「人新世の危機と脱成長」

12月18日（土）山田正彦塾長による総括

3月19日(土) 永戸祐三氏 「協働労働 破局を越えて 日本社会の民主的再生、復興は可能かー労協法」

(5) 成果・所感等

11月20日（土）ベストセラー「人新世の資本論」著者・斎藤幸平氏による講演と塾生たちとの意見交換。環境問題、気候危機を招いた過剰な資本主義と、これからの脱成長について大変示唆に富む話でした。神津からは「人々の共通財産・コモンズ」としての「教育行政」について質問させていただいた。先生からは、当然教育はコモンズであり、最も重要なコモンズのひとつであることをお話いただいた。一部の者だけが富を独占する極端な資本主義からゆるやかな成長へ変わっていかねばならないし、そのことが人々の幸せにつながるのではないかと改めて思った。

12月18日（土）元農水大臣で弁護士、山田正彦塾長による講演。持続可能な農業、安心安全な食、みどりの食料システムの解説、ゲノム編集、遺伝子組み換え、農薬とセットの種子の流通など、農業が多国籍企業の「ビジネス」にされている現状がある。日本は、優

良な農地、豊かな水、大地にめぐまれているにもかかわらず、農地が放置され、農薬、化学肥料に頼る農業がおこなわれている。

小さくてもいいので、あらゆる地域で有機農業が推進されていくことが、食の安全、農業の持続可能性につながる。

3月19日(土) ワーカーズコープ～協働労働という形が注目されている。秋から法施行される協働労働について、地域交流の事例など数多く紹介され、大変に参考になりました。雇用主－労働者という組織ではなく、働く者が労働者であり出資者であり組織の経営者といった協働労働。福祉、林業、飲食業などで期待されている。必要な仕事を自らが生み出し、運営することは、人間が生きるために必要な「働く」という意味、価値を見いだす。

4 政務活動費

(1) 使途項目 研究研修費

(2) 参加費 14000円